

■斯波園女 俳人。捨女・智月尼・秋色女ら元禄四俳女の一人。

しばそのじよ

・・・・・・1664= 伊勢国山田で、神職秦師貞の娘に生まれる。そのめともいう。姓は秦、二本楯、岩井。通称渡会。

酒井忠清大老1666= 2歳 :

三井越後屋・1673= 9歳 :

徳川綱吉將軍1680= 16歳 :

好色一代男・1682= 18歳 :

堀田正俊暗殺1684= 20歳 : この年、古今の女性俳人36名の画像に発句と俳歴を添えた西鶴編「古今俳階女歌仙」が刊行され、女流撰集の嚆矢となる。

出世景清初演1685= 21歳 : この頃、同郷のこの年「あけ鴉」を撰した俳人で眼科医の斯波一有と結婚。

生類憐令始・1687= 23歳 :

日本永代蔵・1688= 24歳 : 伊勢参宮した芭蕉を初めて自亭に招いて入門。芭蕉から「暖簾のおくものぶかし北の梅」の句を得た。

別子銅山始・1691= 27歳 :

世間胸算用・1692= 28歳 : 夫と大坂に移り、西鶴から歓迎されて、「浜荻や当風こもる女文字」の句を得る。

奥の細道・1693= 29歳 : 歳旦句「難波女に何からとはむ事はじめ」。

芭蕉+師宣没 1694= 30歳 : *芭蕉を自亭に招き発句で「白菊の目に立てて見る塵もたし」と貞淑をたたえられると、「紅葉に水を流す朝月」の脇をつけた。この時に芭蕉は酒を過し、茸の毒にあたったのが死の原因とされ、最後の俳席となる。

生類憐令頂点1695= 31歳 : 夫一有と吉野および青流宅を訪問。

・・・・・・1700= 36歳 :

赤穂浪士討入1702= 38歳 : この年、白雪編「誹譜三河小町」刊、下巻は女性の句集としては初。当代の女性67名の発句、付句を収録。

赤穂浪士切腹1703= 39歳 : 夫一有が死去したため、

御蔭参流行・1705= 41歳 : *其角を頼って江戸深川富ヶ岡に移り、眼科医のかたわら雑俳点者として活躍、

富士宝永噴火1707= 43歳 : 其角も死去。深川長慶寺での追善百韻興行に臨む。

辻つじが拘束・1708= 44歳 : この年以降、*俳譜撰集「菊の塵」上・下を編刊し自序。書名は芭蕉の「白菊」発句に因む。

徳川綱吉没・1709= 45歳 :

徳川吉宗將軍1716= 52歳 :

御蔭参流行・1718= 54歳 : 剃髪し、智鏡尼と号する。その時、神道家出身であることをはばかり、頭の頂上に10筋ばかり髪を残す。

捨女・智月尼・秋色女ら元禄四俳女の一人で、また禅の修行もしたらしく雲居和尚との手紙のやりとりも残されている。晩年は和歌に親しみ、

・・・・・・1722= 58歳 : 伊勢神宮に「園女奉納千首和歌」を奉納、

火の見櫓制・1723= 59歳 : 六十の賀に寄せられた句を中心に「鶴の杖」を刊行、深川富岡八幡宮に36株の桜を寄進し歌仙桜と称する。

近松没・1724= 60歳 : 伊勢神宮に「大神宮奉納千首」を奉納、

懐徳堂公認・1726= 62歳 : 没した。

辞世「秋の月春の曙見し空は夢か現か南無阿弥陀仏」